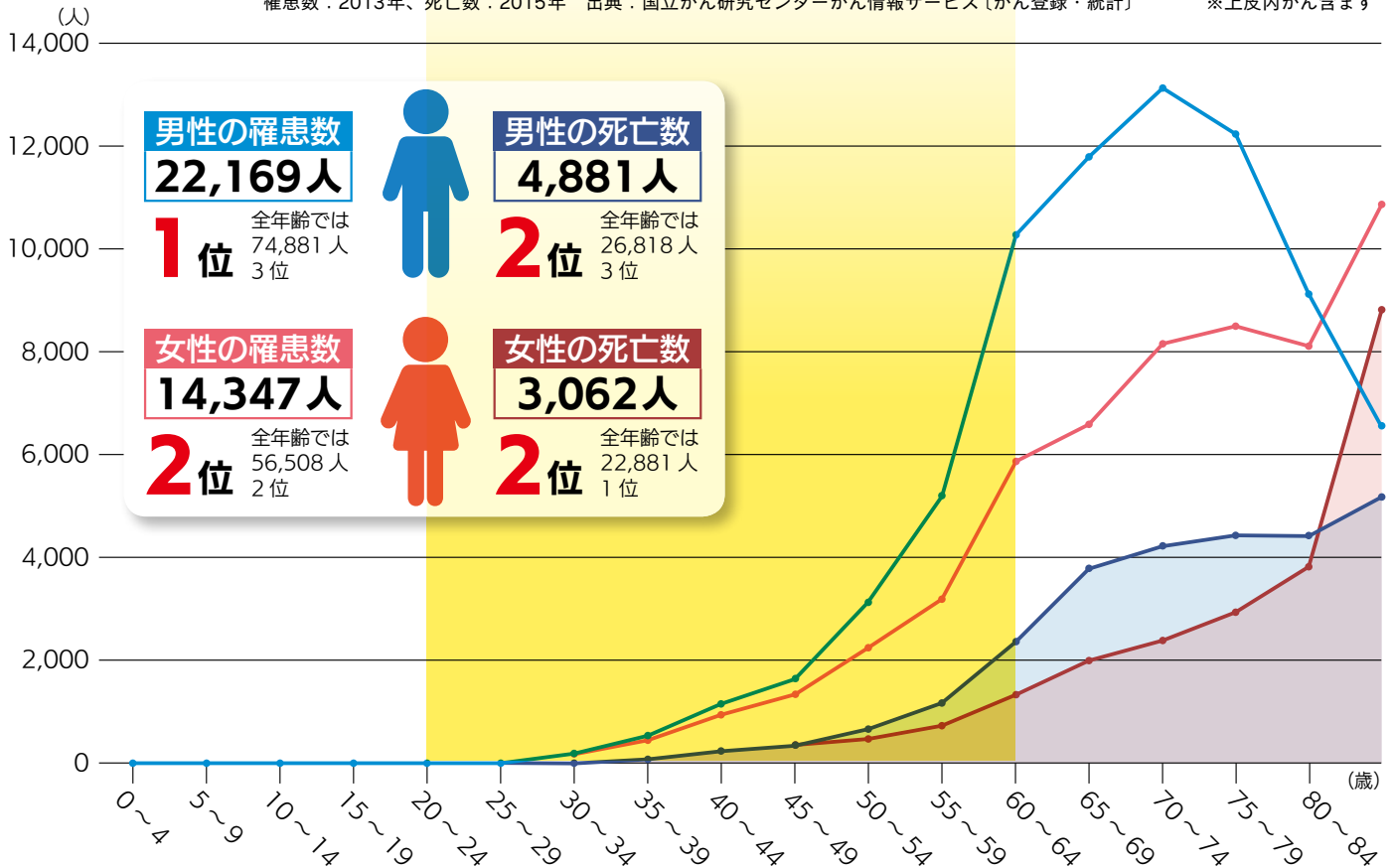




働く世代 (20～64歳) の罹患数と死亡数

罹患数：2013年、死亡数：2015年 出典：国立がん研究センターがん情報サービス〔がん登録・統計〕

※上皮内がん含まず



<p>男性の罹患数 22,169人</p> <p>1位 全年齢では74,881人 3位</p>		<p>男性の死亡数 4,881人</p> <p>2位 全年齢では26,818人 3位</p>
<p>女性の罹患数 14,347人</p> <p>2位 全年齢では56,508人 2位</p>		<p>女性の死亡数 3,062人</p> <p>2位 全年齢では22,881人 1位</p>

- 大腸がんは、働く世代の男性がもっともなりやすいがん。女性にも多い。
- 大腸がんは治りやすいにもかかわらず、男女とも死亡数が多い。
- 男女とも罹患数は30歳代後半から、死亡数は50歳代から増えはじめる。



食の欧米化や便利な生活が大腸がん増加の要因

大腸がんは大腸の粘膜にできたポリープ（良性腫瘍）ががん化するものと、粘膜から直接発生するものがあります。進行するにつれて大腸の壁に深く入り込み、リンパ節や肝臓、肺などに転移します。

大腸がんが増えている背景に、食の欧米化があります。かつての食事は一汁三菜の和食が中心でしたが、現在は肉類や動物性脂肪を多く摂取するようになってきました。また、交通手段などの発達によって体を動かす機会が減り、現代人の多くが運動不足です。こうした食生活や生活環境の変化が関係していると考えられています。

大腸がんのリスク要因

- 肉類をよく食べる。
- 運動不足である。
- たばこを吸う。
- 飲酒量が多い。
- 肥満ぎみである。
- 大腸がんになった血縁者がいる。